

# 校内研修計画

山梨市立日川小学校

## 1 本校の課題

昨年度の全国学力学習状況調査や県学力把握調査の結果から、本校の児童たちは、基礎基本の定着が十分でないという実態が見られた。特に、算数科における課題は多く、既習学習の定着をさらに強化していく必要がある結果となった。また、難しい課題に最後まで取り組まず諦めてしまう傾向が無回答率の高さからもわかる。昨年度の全国学力学習状況調査の結果から、平日による宿題以外の家庭学習の時間が全国や県と比べると増加したことは、昨年度の研究の成果に挙げられるが、平日のテレビゲームやインターネットの視聴時間が全国や県と比べると多いことが明らかになった。これらのことから、知識や技能の確実な定着と家庭学習および基本的な生活習慣の定着に本校の課題があると考えられる。

## 2 研究主題

自ら学ぶ子どもを育てる授業づくり  
～授業と家庭学習のサイクル化の充実を目指して～

## 3 研究主題設定の理由

本校では、これまで活用学習と学級力向上プロジェクトの二本立てで研究を積み重ねてきた成果をもとに、昨年度の研究より、算数科における授業と家庭学習のサイクル化を目指した研究を行ってきた。研究の成果として、授業と家庭学習をリンクさせることで、子供の学習に向かう意欲を高めることや、学習内容の深い理解につながるなどが、授業を受ける子供の姿から感じ取ることができた。また、授業と家庭学習を有機的に結び付ける仕方を明らかにできたこと、そして、子供の発達段階に応じた家庭学習の在り方について全職員で共通理解ができたことなども成果として挙げられる。

しかし、昨年度の全国学力学習状況調査の結果から、基礎的・基本的な内容の定着に依然として課題があり、基本的な生活習慣にも課題があることが明らかとなった。また、授業と家庭学習を関連付けるために、教師は単元全体を見通す中で計画を立てなくてはならないので、授業準備に多大な時間を要すること、どの家庭でも同じように家庭学習を行うことが難しいことなども課題として挙げられた。そこで、児童の学力向上をめざすためには、基礎的・基本的な知識・技能をしっかり定着させることと取り組みやすい家庭学習へ改善すること、そして基本的な生活習慣の定着を図ることが大切であると考えた。

そのため、今年度も授業と家庭学習を連動させた授業づくりを継続して行うとともに、教師や児童にとって取り組みやすい家庭学習になるよう工夫をし、さらに深い学びにつながるよう授業実践をおして明らかにしていきたい。また、「やまなしスタンダード」に基づいた授業を意識し、児童が見通しをもち、主体的に学習に取り組める授業づくりをしていきたい。そして、基礎学力の定着を図るために、朝学習の内容を全職員で検討し、より子供たちの実態に即した内容に改善していきたい。

## 4 研究の目標

自ら学ぶ子どもを育てる授業を創造するために、「やまなしスタンダード」を生かした、授業と家庭学習と朝学習を有機的に結ぶ手立てを工夫する。

## 5 今年度の研究の具体的内容と方法

### 【内容】

- 授業実践・・・算数科において、家庭学習と連携した授業をどのように展開できるか、授業実践をとおして研究を行う。
- 学級力・・・児童同士、教師と児童間のリレーションシップが円滑になるように、学年の実態に合った取組（スマイルアクション）を行う。
- 特別支援・・・校内の学習会を行い、教職員間において指導観の共有化を図る。
- 朝学習・・・本校児童が抱えている課題を克服できるよう、朝学習の内容を全職員で検討し、よりよいものに改善をする。
- 家庭学習（家庭学習ノート）、授業見学、ノート展示会などの取組を継続する。

### 【方法】

- 授業実践について
  - ・全体研究授業は2回
  - ・一人一実践
- 学級力向上
  - ・学級力アンケート，レーダーチャート，スマイルアクションを計画的に実施する。
  - ・全学級で情報交換をする（年1回）

### 年間研修計画

研究主任：小林 みずほ

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
自ら学ぶ子どもを育てる授業づくり ～算数科における授業と家庭学習のサイクル化の充実を目指して～	かたちあそび	竹川きよみ	1	10月	
	九九をつくろう	武井美奈子	2	11月	○
	□を使って場面を式に表そう	向山 澄	3	1月	
	角の大きさの表し方を考えよう	小林みずほ	4	5月	
	図形の角を調べよう	飯島裕明	5	11月	○
	並べ方と組み合わせ方	今澤比呂樹	6	12月	
	はしたの大きさの表し方を考えよう (3年小数)	平塚すみり	特支	10月	

\*上記の内容以外に、特別の教科道徳に関わる学習会や特別支援教育の学習会を計画している。